多摩地域のタウン紙 アサココ

asacoco

2024年
6月20日

朝はここから 毎日の発見を応援します！

279号

2024年6月20日号（通常毎月第1・3木曜発行）
発行協力：多摩東部・西部朝日会

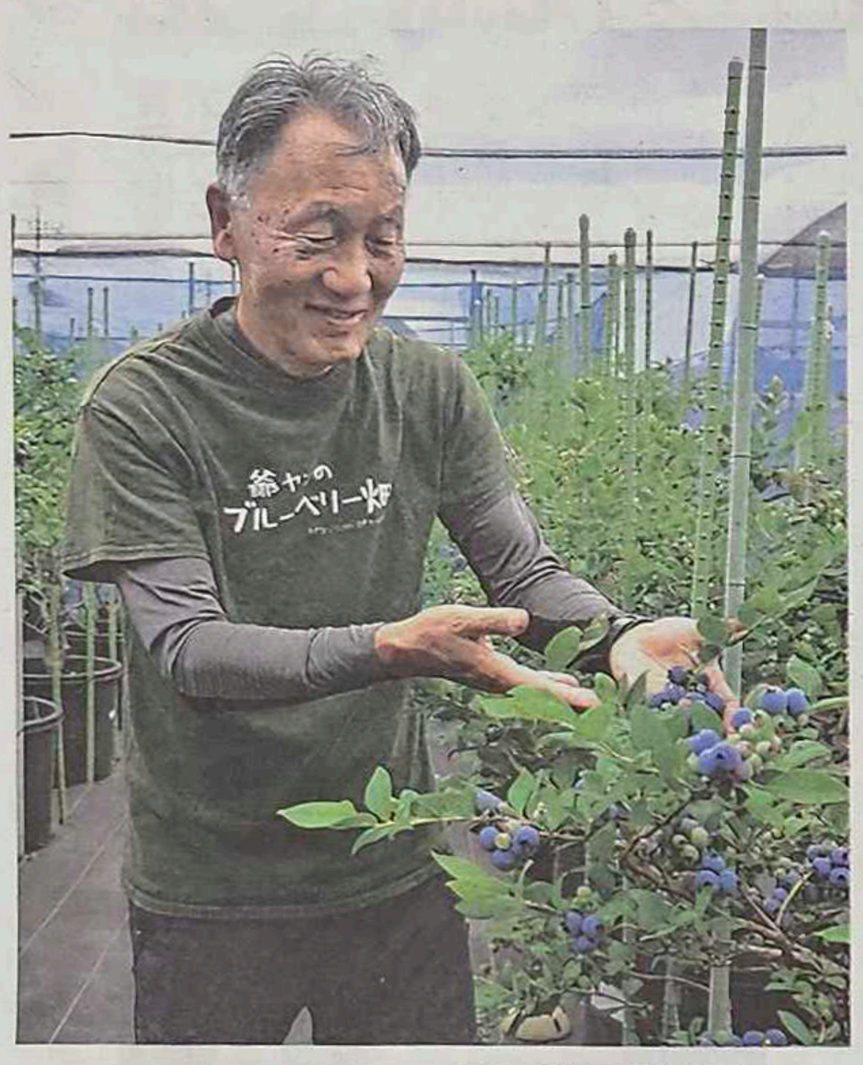
編集・発行：アサココ　Tel.042-505-6904　Fax.042-505-6905
〒186-0004 国立市中 1-9-4-408　E-mail✉info@asacoco.jp

http://www.asacoco.jp

アサココの定期購読も受け付けています
▶年間3,800円／郵送でお届け
申し込みは
☎042・505・6904
アサココは第1・第3木曜日に多摩地域に配布される朝日新聞と一緒にお届けしています
※町田市・稲城市を除く

爺ヤンの畑　7月30日まで　府中市

今がブルーベリー摘み取り時



屋外の爺ヤンのブルーベリー畑で実のなり具合を見る松村岩男さん

【右】しっかり色づき収穫間際のブルーベリー
【中】4月～5月に開花するブルーベリーの花（松村さん撮影）

青紫のかわいい実とさわやかな酸味が特徴の果物、ブルーベリーは「太陽が育む夏の宝石」ともいわれ、抗酸化作用にも優れ、アンチエイジングフルーツとして注目されている。今がブルーベリーの旬と聞き、府中市では珍しいブルーベリーの養液栽培システムでポット栽培に取り組んでいる松村岩男さん（71）を訪ねた。

養液栽培に助けられて

南武線西府駅北口から徒歩6分。住宅街に「爺（じい）ヤンのブルーベリー畑」と書かれた看板があった。

屋外の畑を案内してもらう。まず60リットル大の大きなポットがズラーッと並ぶ。ポットには青紫の実をいっぱいつけたブルーベリーの木が植わっていた。床は防草シートで覆っているから足元は歩きやすい。「食べてみて」と松村さんが500円玉大弱のブルーベリーの実をとってくれた。「甘く、ジューシー」。

「露地栽培は収穫まで5、6年かかるが、養液栽培だと1年と早い上に、甘く大きく育つ」と松村さん。

ブルーベリーの原産地は北アメリカ。水はけがよくて水持ちがいい酸性の土に育つ。養液栽培は、土は使わず、ポットの中にアクアフォーム（発泡樹脂）をいれ、苗を植える。そこに肥料入りの水を細いチューブからポタポタと点滴冠水でポット全体に浸透させる。

「天候や害虫に左右されにくく、根元の雑草の手入れも不要なので養液栽培に助けられました」。

還暦を機に就農にチャレンジ

松村さんは元車関係のカメラマンだった。妻の江身子さんの父親が亡くなり2500平方㍍の畑を引き継いだ。松村さんは還暦を機に現役を引退し、就農を決意。二人の好きなブルーベリーの苗を70本購入するところから始めた。

農園を始めて今年で8年目。ハウスと屋外を合わせて38種類、約800ポットのブルーベリーを育てている。ハウスの摘み取りは5月、6月で終わる。これからは屋外の摘み取りになる。

「ブルーベリーの果実についている白い粉は農薬と間違われますがブルームといい、果実自身が水分の蒸発を防いだり、病気を予防したりするために出す物質で、新鮮さの目安なので安心してください」と松村さん。

日野市でも仲間がオープン

松村さんの農園には家族連れだけでなく、ブルーベリー愛好家も来訪する。

佐藤収一さん（国立市）もその1人。20年来、ブルーベリー畑の経営にあこがれていた。松村さんと親交を温め、日野市宮278の元水田だった所に養液栽培による600ポットのブルーベリーを入れ、「たまのブルーベリー」園（日野駅から高幡不動行のバスで「エプソン前」下車3分）をオープンした。「7月末まで摘み取りが可能です。露地物よりも大粒で甘いので、食べ比べてください」。（佐藤さん）

1パック（100グラム）500円のブルーベリー（左）。
60リットル大のポットは防草シートの上に（右）＝共に「たまのブルーベリー」園で

■爺ヤンブルーベリー農園
7月30日までの火・木・土・日曜の9時～17時。屋外の摘み取りはおとな（中学生以上）200グラム1200円～。こども（3歳～小学生）100グラム600円から（入園料込み）。完全予約制。1枠6人まで1時間制。ハウス内のテラスではブルーベリーサイダーなどを販売。ブルーベリー小パック100グラム600円～。ブルーベリージャムなども販売している。府中市本宿町1・1・13。申込みは「爺ヤンのブルーベリー畑」のサイトへ（http://izm-bf.tokyo）

■たまのブルーベリー
摘み取りは7月30日までの、火・木・土曜10時から15時までの1時間入れ替え制。希望日の3日前までに「たまのブルーベリー」サイト（https://tamanoblueberry.jp）から申込む